

【参考資料】子育て支援についての当事者世代の声を踏まえた施策等 【子育て支援課】

○当事者のご意見のヒアリングについて

18歳から39歳の県民4,000人を対象とした調査を実施（令和6年8月28日～9月11日）

○高知県が「安心して『妊娠・出産』できる社会」か…回答者平均における「そう思う」「ややそう思う」の割合は、**23.3%**。

○高知県が「安心して『子育て』できる社会」か…回答者平均における「そう思う」「ややそう思う」の割合は、**25.3%**。

◆乳幼児期の子育てについて、今後もっと充実してほしい取り組み

- 1位：子育ての負担を軽減する家事支援
- 2位：子育て仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業
：子育て支援センターの土日開所
- 4位：一時的な預かりや送迎を地域の方が援助するファミリー・サポート・センター事業
- 5位：子育て支援情報の発信強化

◆どのような環境があれば理想の人数の子どもを持つことができるか

- ・仕事と家庭の両立に対する職場の理解や環境があること
- ・家事や育児に対して、配偶者（パートナー）の協力・理解が得られる
- ・子どもを預けられるサポート体制が整っている
- ・子連れで外出しやすい施設やサービスが各地域に整っている など



～安心して子育てできる体制づくり・住民参加型の子育て支援の拡充～

- 父親の家事・育児参画を促進するため、仕事と家庭の両立支援が必要
⇒県内企業等における男性育休の取得促進や企業版両親学級等を開催。育休取得の必要性や仕事と家庭の両立について職場全体での理解を深める
- 地域子育て支援センターやファミリー・サポート・センターにおける子育て支援サービスの充実が必要
⇒地域子育て支援センターの土日開所、ピアサポーターや地域ボランティアによる気軽に相談できる環境づくりを推進
ファミリー・サポート・センター未設置の市町村への情報提供等による設置の促進や設置市町村の事業を支援（経費の支援、広報支援等）
- 企業も含む地域全体で子育てを応援する機運の醸成が必要
⇒子育て支援サービス・商品開発や環境整備などに取り組む企業への助成を実施
- 子育て支援サービスの情報発信の充実が必要
⇒子育て応援アプリによる子育て支援関連施設や子育て応援の店等の情報発信の充実、アプリ内キャンペーンの実施、利便性の向上を図る

子育て応援アプリのアンケート機能によりアプリ利用者の声を収集する仕組みを構築。施策の検討に利用者の声を反映していく。

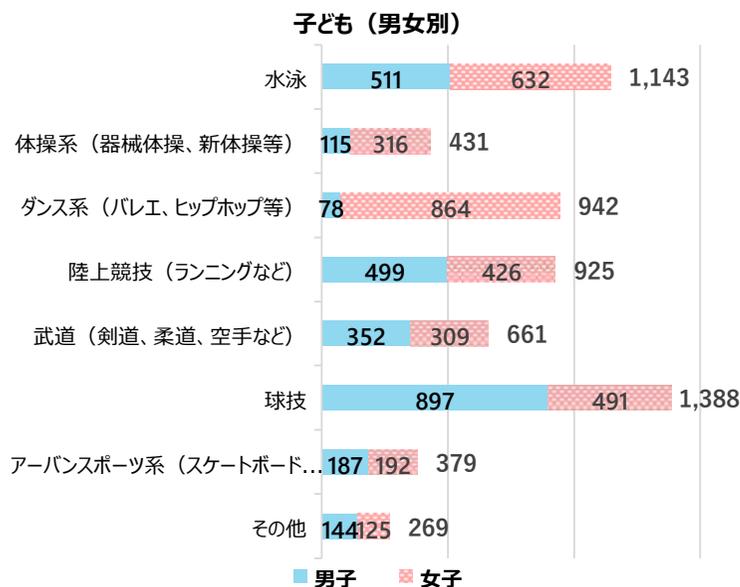
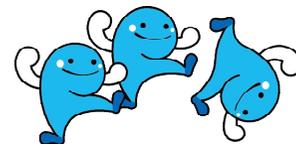
【参考資料】子どものスポーツ環境づくり 【スポーツ課】

【子どもの運動・スポーツに関する調査】を実施

- ・ 調査対象：高知市を除く高知県内の33市町村の保護者（5歳児～小学3年生、小学4年生～小学6年生）及び児童（小学4年生～小学6年生）
- ・ 調査期間：令和5年9月11日～9月29日
- ・ 標本数：全体8,916人（有効回答率 36.0%） ※保護者4,605人・児童4,311人

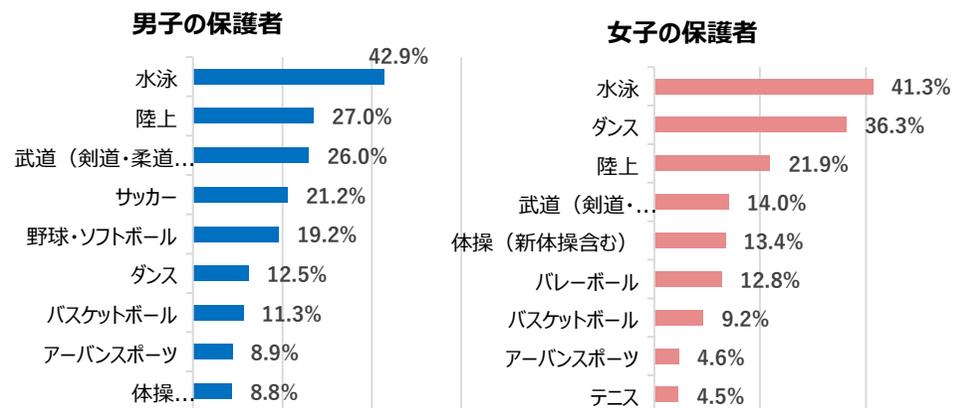
○運動やスポーツをしている、していないに関わらず、今後やってみたい運動やスポーツは？

子ども達が今後やってみたい運動・スポーツの回答結果では、「球技」・「水泳」・「ダンス」・「陸上」が上位を占めている。男子では「球技」と回答する割合が多く、女子では「ダンス系」となっている。



○保護者が子どもにさせたい運動・スポーツ

保護者が子どもにさせたい運動・スポーツの回答結果では、男子、女子の保護者とも「水泳」や「陸上」が上位となっている。



- 子どもや保護者が今後やってみたい、やらせてみたいスポーツとして回答の多かった「水泳」「ダンス」の指導ができる地域おこし協力隊を配置し、学校授業や部活動などで指導を実施。
- ダンスが学べる環境がなかった嶺北地域でプロダンサーによるダンスレッスン体験会を実施し、練習成果を地域の夏祭りやダンスイベントで発表。

○当事者へのアンケートについて

- ① 施設入所児童等（里親委託含む）へのアンケート調査を実施（令和6年8月）
- ② 社会的養護経験者（ケアリーバー）等への実態調査を実施（令和5年9月28日～11月10日）

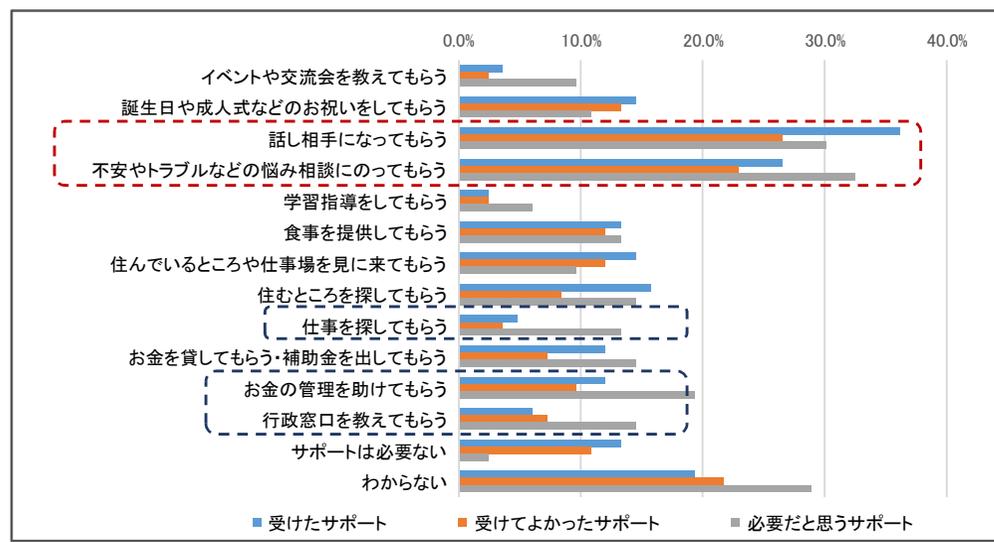
①

○サポートケア（児童相談所職員との定期面談）で、あなたの言いたいことが言えているか

- ◆「言えている」が最も多く**54.2%**、「言えていない」が**10.9%**、「分からない・覚えていない」が34.0%
- ◆「言えていない」と回答した場合の理由は、「自分の意見を言ってもどうせ通らない」が38.5%、「自分の意見をうまく伝えることができない」が38.5%、「自分がどうしたらいいのかが決められない」が23.1%

②

○施設等を退所した後の施設や支援機関、行政などからのサポートについて（複数回答有）



◆「受けたサポート」「受けて良かったサポート」「必要だと思うサポート」

- ・「話し相手になってください」や「不安やトラブルなどの悩みごとの相談ののってください」については、「受けた」「受けて良かった」「必要だと思う」のいずれも高くなっている
- ・「お金の管理を助けてください」「行政窓口を教えてください」「仕事を探してください」については、「必要だと思う」の回答に比べ、「受けた」及び「受けて良かった」の回答が少なくなっている



○こどもがより意見を表明しやすい環境づくりが必要⇒こどもの意見表明への支援の充実、権利擁護にかかる環境整備

○社会的養護経験者等のニーズに応じた切れ目のない支援体制の充実が必要
⇒日常生活や就業に関する相談支援、相互交流の場の提供など、施設入所中から退所後も含めた支援の強化

【参考資料】高知県子どもの生活実態調査の結果を踏まえた施策等 【子ども家庭課】

● 高知県子どもの生活実態調査を実施（調査期間：令和6年6月～8月）

- ・調査対象 高知県内在住の小学5年生・中学2年生・高校2年生及び保護者(各1,200世帯)
- ・回答数 **子ども** 1,312人（回収率36.4%） **保護者** 1,379人（回収率38.3%） ※郵送及びWEB回答

▶ 子ども食堂の利用状況 **保護者**

- ・利用したことがある・・・ 15.3% ← 0.6%(H28)
- ・利用したことがない理由
 - 身近にない…………… 6.5% ← 12.6%(H28)
 - 全く知らなかった・・・ 2.7% ← 11.0%(H28)

子ども食堂の設置数の増加により、「利用したことがある」保護者が増加
＜参考＞ 子ども食堂数：114か所（R6.9） ← 20か所（H28）

保護者

- ・もっと身近に子ども食堂があつたらいいと思う。
- ・全世代の方が子育て、見守りなどに関わって参加しやすい子ども食堂の進化版のようなサービスを実施してほしい。

子ども

- ・子ども食堂など夕ごはんを無料か安く食べることができる場所を「利用したことがある」……………11.5%
- ・利用したことがない子どものうち「あれば利用したいと思う」……34.0%



▶ ひとり親家庭の声 **保護者**

○あつたらいいと思う子育てサービス **保護者**

- ・知らないことで不利益が生じないよう行政側からの積極的な制度の周知
- ・経済的な理由で大学進学をあきらめなくてもよい制度
- ・地域で気軽に利用できるこどもの居場所、相談の場
- ・放課後に勉強を見てくれるサービス
- ・何でもすぐに相談できる電話相談
- ・確実に養育費を受け取ることができる制度



- 養育費の取決め
 - 「取決めをしている」 52.3%
 - 「取決めをしていない」 45.6%
- 養育費の受取
 - 「受け取っている」 39.7%
 - 「受け取っていない」 58.2%



○ こどもの居場所づくりの推進

- ・子ども食堂の運営経費への補助やこどもの居場所づくりコーディネーターの配置により、地域の実情に応じた子ども食堂の開設や運営を支援します。

○ ひとり親家庭への支援の充実

- ・ひとり親家庭支援センターのPRの強化と、LINEやオンライン相談などにより相談体制を充実します。
- ・養育費に関する弁護士相談の実施や、養育費の取決めにかかる手数料への補助などにより、養育費の確保に向けて支援を強化します。



【参考資料】出会い・結婚についての当事者世代の声を踏まえた施策等 【子育て支援課】

○当事者のご意見のヒアリングについて

- ① 出会い・結婚・子育て支援の実施に向けた基礎資料の収集調査を実施（令和6年8月28日～9月11日）
- ② 高知県少子化対策推進県民会議「若い世代部会」が知事等との座談会を実施（令和6年9月11日）

①

【調査の概要】

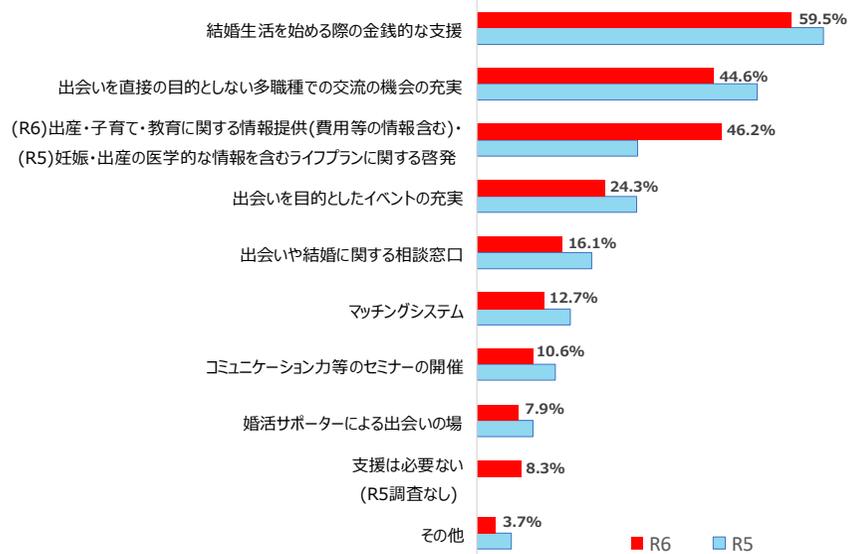
県内全域の18歳以上39歳以下の県民4,000人が対象（郵便調査）、有効回収数1,514部（郵送1,110部、WEB404部）

【調査結果（抜粋）】

○高知県が『安心して「結婚」できるような社会』になっているか

◆回答者平均における「そう思う」「ややそう思う」の割合は、**33.9%**。（結婚している人：42.9%）（未婚者：30.3%）

○出会いや結婚に関して必要だと思う行政支援



＜アンケートで寄せられた声（抜粋）＞

- 結婚や子育てを考える上で、生活に余裕がほしい。（20代前半女性）
- カジュアルな出会いの場が増えたらいいと思う。（20代後半女性）
- 交際や結婚をサポートする環境づくりの充実化が必要。（30代後半男性）
- できるだけ出会いを感じさせない交流の場をメインにしたイベントに行ってみたいと感じている。（20代前半女性）
- 若者を県内に留める対策を進めるべき。結婚で留まるケースが多いため、もっとマッチングイベントなどの広告をするべきである。（30代前半男性）
- 自由な時間が多いと出会う場面も多くなるため、働き方などを改善していくのも必要だと思う。（10代後半男性）



- 若い世代の賃上げに向けた取組の強化が必要⇒高知県産業振興計画や高知県元気な未来創造戦略により取り組みを強化
- 新たな出会いに前向きになれるようにワークライフバランスの向上が必要⇒県内企業等におけるワークライフバランスの推進
- 若い世代のニーズにあわせた社会人同士の交流の場が必要⇒多様な交流機会のさらなる創出

○当事者のご意見のヒアリングについて

- ① 出会い・結婚・子育て支援の実施に向けた基礎資料の収集調査を実施（令和6年8月28日～9月11日）
- ② 高知県少子化対策推進県民会議「若い世代部会」が知事等との座談会を実施（令和6年9月11日）

②

【参加者】

- 県内在住の20～30代の独身者、既婚者（男性4名、女性4名）
- 県民会議側（3名）
 - ・高知県知事 濱田 省司
 - ・高知県市長会会長 桑名 龍吾（高知市長）
 - ・高知県商工会議所連合会会頭 西山 彰一 ほか

【テーマ】 出会いと結婚



＜独身者からの意見（抜粋）＞

- 今は仕事を楽しんでいる。でも、出会いに対するモチベーションも高い。
- 同世代で価値観の近い人と知り合える場が必要。
- まだ奨学金も残っていて、今結婚すると相手に迷惑をかけるのではないかと考えてしまい、結婚に不安がある。
- 出会いに対してもっと前向きなマインドを持つ必要があると感じた。
- 周りの同級生がどんどん結婚していくのをSNSで知り、「自分は一生ひとりかもしれない」と不安になる。
- 出会いのイベントに参加した際、年収を聞かれて正直に答えると「少ない」と言われた。お金を持っていないと結婚は無理なのかなと思い、結婚に前向きになれなくなった。
- 高知でマッチングアプリを使うと、マッチングした相手と共通の知り合いにつながることも多く、活動しにくいと感じることがある。
- 地域活動やよさこいなど、同じ目標にむかって活動する中で自然と出会いにつながる場があるとよい。

※個人の価値観や希望を尊重し、県の出会い・結婚の施策を進めます。

- 婚活をあまり意識せず、自然なかたちで出会う場が必要⇒自然な出会いや継続的な社会人同士の交友関係づくりの機会確保
- 若い世代のニーズにあわせた社会人同士の交流の場が必要⇒多様な交流機会のさらなる創出